

## クリニカルパス電子カルテ導入後の 病棟での取り組みについて

愛媛医療センター 看護師：山本智世

## はじめに

- 当院では、医療型短期入所（以下、ショートステイ）をしており、介護する家族がさまざまな理由で短期間預けることができるサービス
- 重症心身障害児・者が利用をしている

## ショートステイレスパイトパス について

- ショートステイ開始時より小児ショートステイレスパイトパス（以下、ショートステイパス）を作成し、統一した看護ケアを継続するために、現在クリニカルパスを使用している
- 当院での電子カルテ導入に伴い、2021年からクリニカルパスの電子化を行うことになった。

## 電子パス承認

担当メンバー内の情報共有

パス担当師長

パス担当Ns

病棟師長

小児科Dr

電子パスの知識を得るために使用方法の周知を行う

パス担当Nsからスタッフへの周知

テスト患者を用いて実際に操作してもらいながら説明を行う

この部分はどうしたらいいか？

もう一度操作確認してみよう！！

## 電子パス使用開始

- スタッフの理解度や問題点などを確認
- その場で解決できない問題に対してはパス担当師長へ報告し必要時スタッフへ伝達・情報共有を行う

## 具体的な問題点

- パス画面の確認不足により、記載された情報の共有ができなかった
- 日々のバリエーション評価の実施ができなかった
- 最終評価の実施ができなかった

## 具体的な取り組み①

パス画面の確認不足

パス画面ではなく、電子カルテの経過表で確認していた

パス画面は各勤務帯確認する

パス画面を見る習慣化

## 具体的な取り組み②

パスの評価漏れ

毎月5件ほどの評価忘れがあった

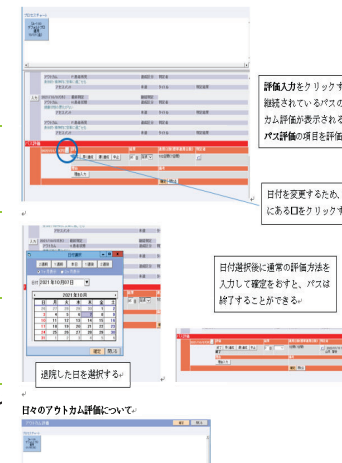
記録委員と協力しチェック漏れ一覧表を作成

具体的な評価方法について図と文を作成しメンバーへ配布

パスのバージョンアップに伴い、評価漏れの表記が分かり

資料を見ながら実際に取り組む様子がみられた

評価漏れは毎月2件  
ほどに改善した



## 電子パス使用しての反応と意見

### 看護師

- 入力に時間がかかるため、記録の時間が増えた
- 電子カルテになり、看護記録や医師記録が分かりやすい
- 日々の患者の状態や経過が見やすくなり、情報収集がとりやすくなった

### 医師

- 紙カルテは記載する枠が狭く、看護師に直接聞くことがあったが、電子パスになり、電子カルテと連動しているため、記録が見やすくなり、経過が分かるようになった
- 災害時など電子カルテが使用できない時の情報管理について今後検討していく必要がある

## 電子カルテでのクリニカルパスの運用から学んだこと

---

パスの問題に対してチームで話し合い取り組むことで、評価漏れの改善につながった

---

現在のパスについて見直しと評価を行い、パスの改善に繋がっていききたい